

補 充 を意図した道徳の時間

主題名 「謙虚に他に学ぶ」

内容項目 2-(5) 寛容の心・謙虚

第2学年 A組 20名 指導者 宮下 昌志

1 **ねらい** 相手の個性を認め、謙虚に他に学ぼうとする道徳的判断力を育てる。

2 **資料名** あいつの一言 (出典 広島県教育委員会 心の元気Ⅰ)

3 主題設定の理由《指導観》

(1) ねらいとする道徳的価値について《価値観》

個性とは、一人一人の人間がもつ固有の他ととりかえることのできない独自性である。人間は、たいていの物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。個性については短所にばかり目を向けがちである。

中学生の時期は、ものの見方や考え方に違いが現れてくるとともに、個性がはっきりしてくる。そのため、自分の考えや立場に固執し、自分とは違う他者の考えや立場を素直に認めようとせず、わがままを言ったり、寛容さと謙虚さに欠ける言動をとってしまったりすることがある。

個性は、決して一人で伸びるものではなく、他に認められながら伸びるものである。互いのもつ異なる個性を見付けて尊重し、違うものを違うと認め、ときには許す私心のない寛容の心、偏狭なものの見方や考え方のない広い心をもち、謙虚に他に学んでいくことが、よりよい人間としての成長を促すために大切である。

(2) 生徒の実態《生徒観》

相手の個性を認め、謙虚に他に学ぼうとする道徳的判断力を育てるために、学校教育全体で以下のような指導を行ってきた。

① 道徳の時間における指導

1年時に内容項目 2-(5)「言葉の向こうに」(文部科学省 中学校道徳 読み物資料)を資料として、いろいろなものの見方があることを理解し、情報社会におけるよりよいコミュニケーションのためには相手の立場を尊重することの大切さについて考えた。

② 各教科等での指導

ア 教科指導

国語科では、読書教材「メディアと上手に付き合うために」において、テレビ・新聞・インターネットの特性を読み取る学習を通して、それぞれに長所と短所があり、使う人が自分なりの問題意識をもって情報を読みこなすことの大切さに気付くことができた。

イ 特別活動

学級活動の時間では、「私たちの道徳」p.43 2-(5)の資料を用いて望ましい人間関係のあり方について考えた。また、昨年度行われた全校生徒参加型の学校保健委員会では、「アサーション」を通して「性格が暗い」と悩む友達に「それって、冷静沈着っていうことじゃない」と言葉をかけ、性格を多面的に考える見方を学んだ。

③ 日常での指導

生徒の個性は十人十色である。理解の早い生徒と時間のかかる生徒、器用にできる生徒と一人ではできず支援を要する生徒がいる。学級の係活動や部活動では、日頃から互いの考えや立場を理解し、尊重し合うよう指導を行ってきたが、小学校からの変わらぬメンバー構成ということもあり、全員の友達の性格を分かったように決めつけてかかわり、仲の良い友達だけでグループを作ってしまう様子が見られる。また、生徒間に暗黙の了解による序列のようなものが存在し、一人一人の良さを生かしきれていない現状がある。

本時の学習では、資料を通して偏狭なものの見方や考え方にならず、友達のよさや個性を謙虚に学んでいく姿勢の大切さを学ばせるとともに、自身のこれまでを振り返らせ、謙虚に他に学ぼうとする道徳的判断力を育てたい。

本時の授業は「補充」を意図して行う。生徒はこれまでの授業や生活で寛容の心、謙虚さについて十分に学習を積んできたとは言えない。そこで、資料「あいつの一言」で主人公の心情を読み取る活動や自己の振り返りを通して、学ぶことの少なかった寛容の心、謙虚さに関する補充を行う。

(3) 資料について《資料観》

実際にあった奉仕作業での出来事を文章にしたものであるため、生徒にとって身近に感じられる資料である。主人公の「健太」が「渡辺」に対して偏った見方しかできず、「渡辺」の頑張りに腹を立て、ひどいことを言うてしまう。しかし、「渡辺」から返ってきた言葉は「健太」を思いやる言葉で、それを素直に受け入れられない「健太」の様子が描かれている。

「健太」の心情を考えることにより、偏った見方で友達を見るのではなく、多面的な見方で見ることによって相手の良い面が見えてくることに気付かせたい。また、普段はなかなか歩み寄れない友達に対して、広い視野で認め合うことについて考えさせたい。

4 補充を意図し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための指導の工夫

(1) 道徳的価値について理解するために

- ・ 渡辺のことを偏った見方でなく、多面的に見ることで謙虚に他に学ぶ大切さを分かりやすくする。
- ・ 健太の心情に迫ることで、つい、仲間を見下した発言をしてしまった思いにふれ、価値の実現の難しさを知る。
- ・ 登場人物の心情を考え、班（3～4人）で、話し合うことによって、偏った考えをもつのではなく、自分の気付かなかった考えを発見できるようにする。
- ・ ワークシートを活用し、書く時間を確保する。
- ・ 自分の生活を振り返る場面においては、多様な意見を紹介するために、意図的に指名する。

(2) 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえるために

- ・ 導入の部分で部活動における自分のポジション（友達との関係）を考えさせることで、自分の生活を振り返りやすくするとともに、「誰に対してもできるか」また、「なぜ、認めることが難しいのか」を考えさせる。
- ・ 資料における登場人物の心情の変化から学んだ道徳的価値をもとに、今までの自分の生活を振り返ることで、友達へのかかわり方に目を向けさせる。

(3) 道徳的価値にかかわる課題を培い、人間としての生き方についての自覚を深めるために

- ・ 授業の終末で、自他への尊重を再確認できるよう「私たちの道徳」p.74・75の文から自己の生き方についての自覚を深める。

5 本時の展開

過程	学習活動と発問「 」(◎は中心発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点(○) 及び評価の観点(☆)
導入 (2分)	1 部活動における自分のポジション(友達との関係)を思い浮かべる	○ねらいとする道徳的価値への方向付けをする
展開 (45分)	2 資料を読んで話し合う <価値理解><人間理解><他者理解> (1)「清掃活動での渡辺はどのような様子でしたか」 ・作業を一生懸命やっている ・作業がていねい ・使った道具を最後まで片付けていた (2)「健太はなぜ腹立たしい思いにかられたのでしょうか」 ・普段思っている渡辺の姿と違うから ・僕もやっているのに、渡辺だけがほめられるから ◎(3)「健太が赤くなった時、どのような気持ちだったのだろう」 ・何であんなことをやってしまったのだろう ・渡辺に気遣ってもらって恥ずかしい ・渡辺って良いところがあるんだな	○渡辺のことを健太はどのように見ていたのか確認し、普段、意識していない存在だったことをおさえる ○腹立たしい思いにかられた健太の気持ちを考えさせることにより、渡辺のことを下に見ていたことに気付かせる ○少人数のグループで意見を伝え、話し合うことで、互いの考えの違いに気付かせる ○健太が渡辺の良いところに気付いたが、認められないでいる瞬間であることをおさえる
	3 自己の生活を振り返る<自己理解> (4)「あなたは健太のように素直に人の良いところを認められなかったことはありますか」 ・部活で自分も頑張っているのに友達の方がほめられたとき喜ばなかった ・頑張っている友達のけなしてしまった	○周囲から認められている人ではなく、「誰に対してもできるか」を考えさせる ○「ない」という人には、なぜ認めることが難しいのか考えさせる ☆自身の性格や考え方、これまでの生活に照らし合わせて、意見をもつことができたか
終末 (3分)	4 私たちの道徳 p74・75 の文から謙虚に他から学ぶことはなぜ大切か、改めて考える	○「自分では気付かなかった周囲の人のものの見方や考え方に謙虚に学ぶことは人間としての成長に大きく役立つ」という言葉を紹介し、一層の補充を図る

